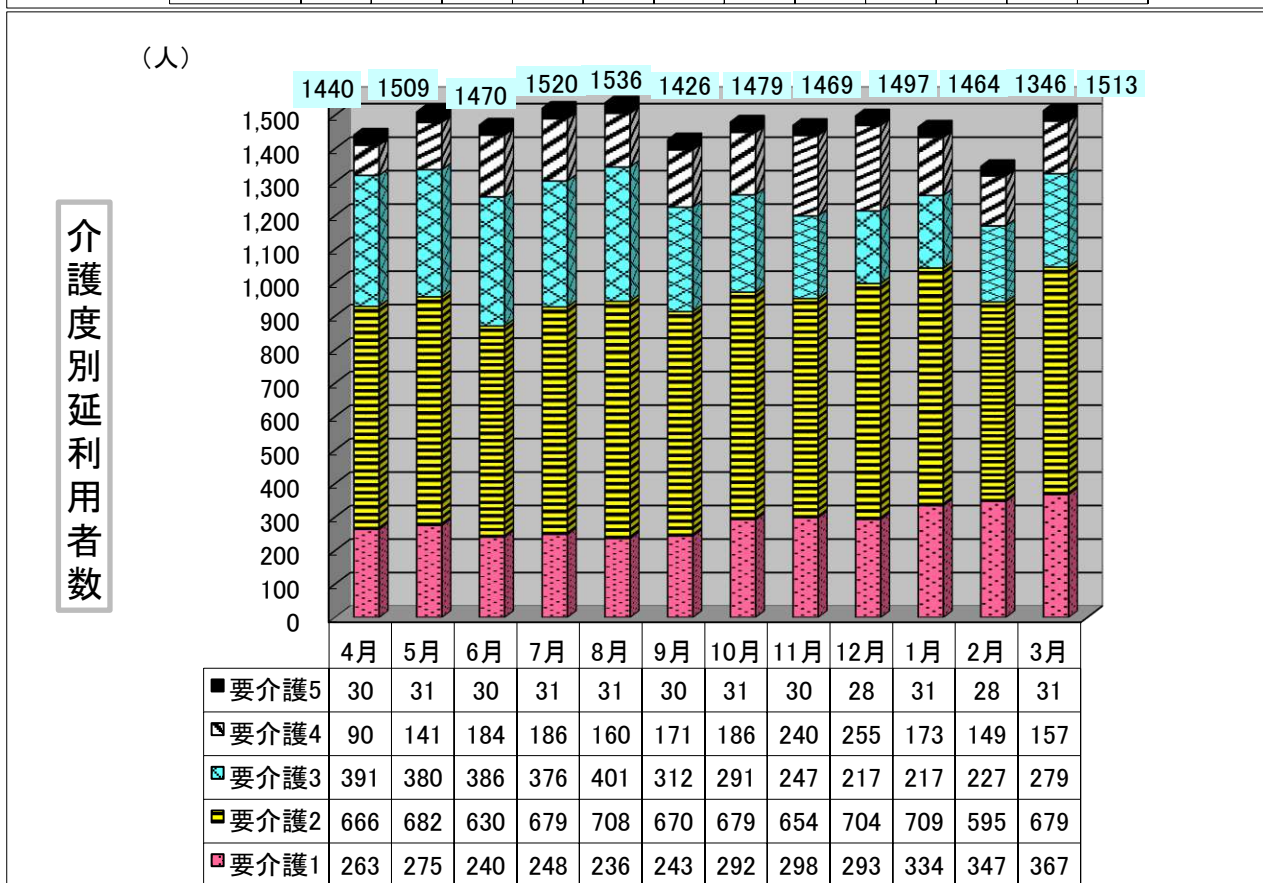
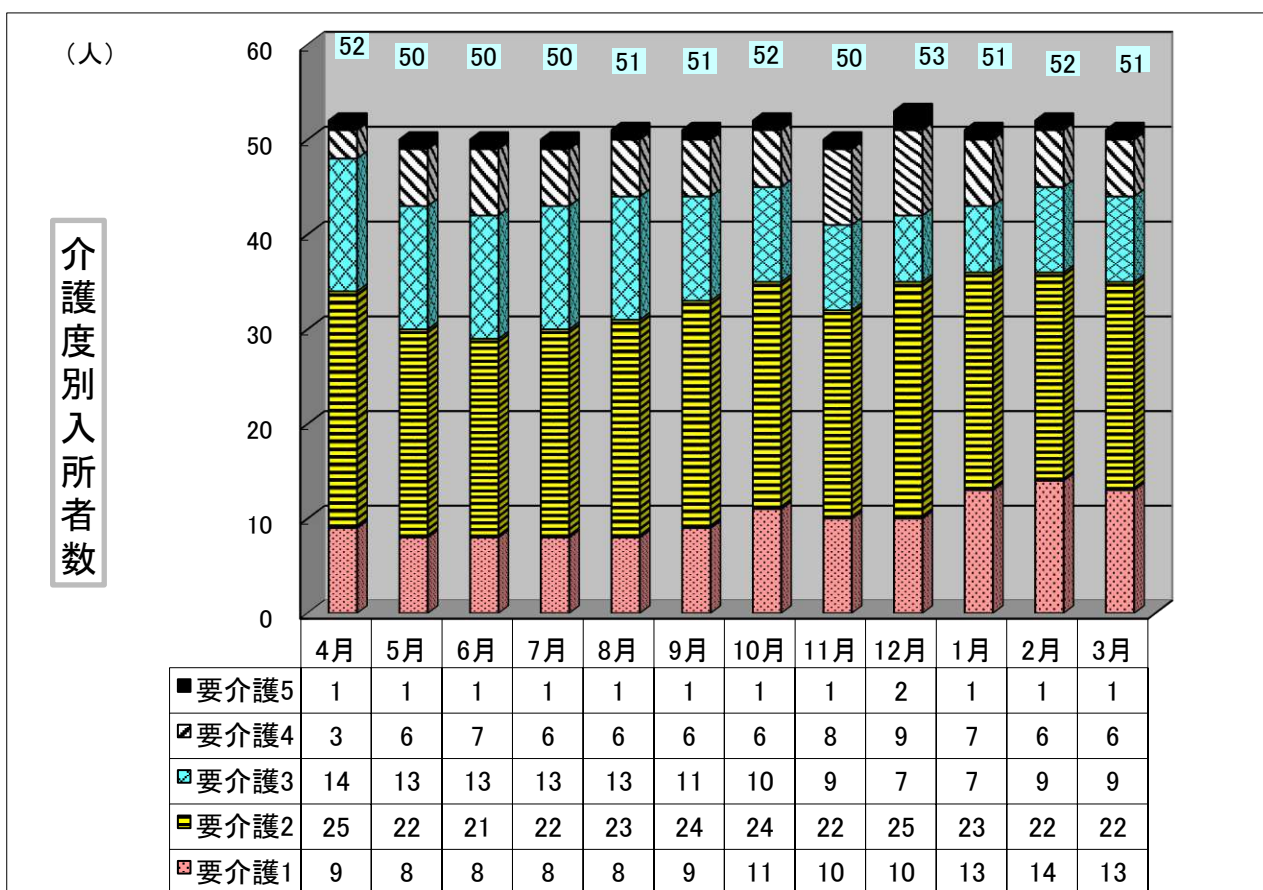


令和7年度 事業報告書

老人保健施設たき
(通所リハビリテーション含む)

令和7年度 老人保健施設たき「入所・短期利用者数」

(定員50名。短期は空所利用型)

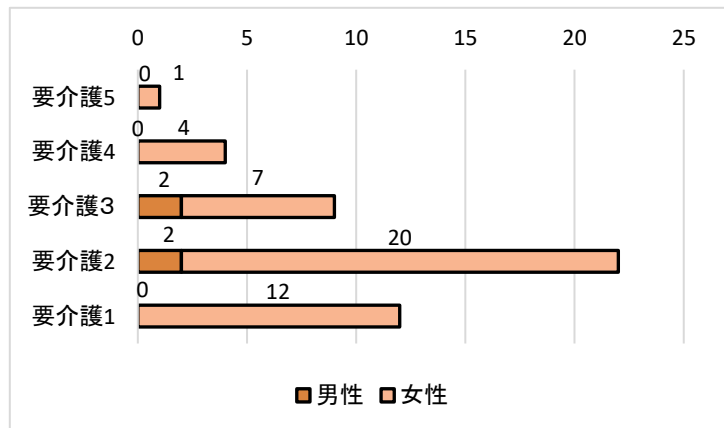


施設入所者 延べ 17,669人、短期入所者 延べ 32人(計 入所率96.99%) 48.5人/日
 (令和6年度 入所率96.65% 48.3人/日、令和5年度 入所率94.07% 47.0人/日)
 (令和4年度 入所率92.19% 46.1人/日、令和3年度 入所率89.82% 44.9人/日)

【施設(短期含まず)サービス】 入所者状況(令和8年3月31日現在)

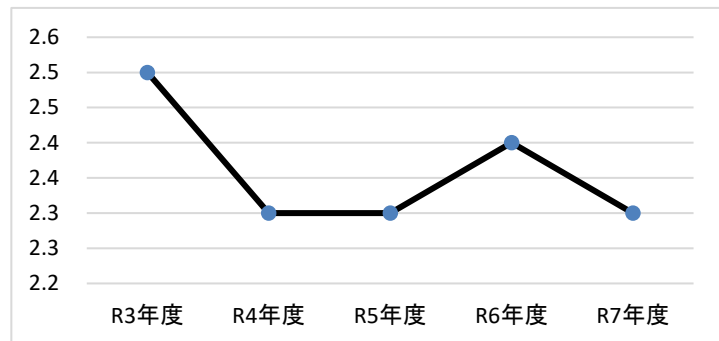
要介護度別利用者数 (3月)

要介護度	男性	女性	合計
要介護5	0	1	1
要介護4	0	4	4
要介護3	2	7	9
要介護2	2	20	22
要介護1	0	12	12
合計	4	44	48



平均介護度(年度平均)

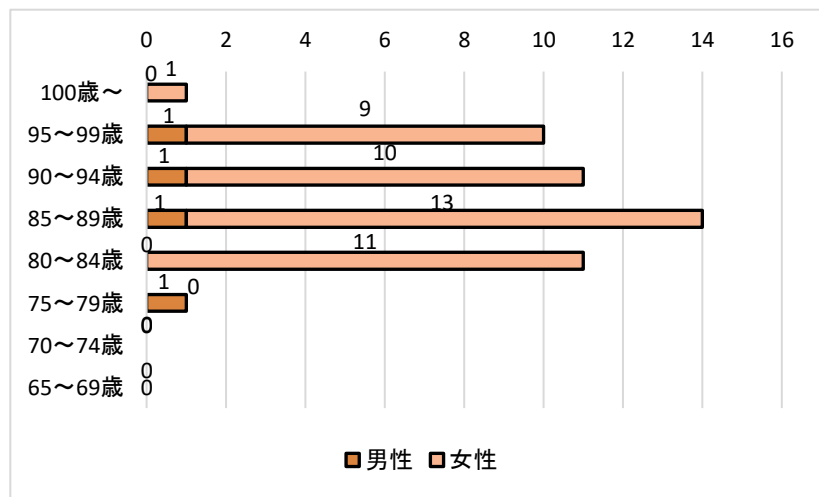
年度	平均
R3年度	2.5
R4年度	2.3
R5年度	2.3
R6年度	2.4
R7年度	2.3



(少数点以下第2位を四捨五入)

年齢構成 (3月31日現在)

年齢	男性	女性
100歳～	0	1
95～99歳	1	9
90～94歳	1	10
85～89歳	1	13
80～84歳	0	11
75～79歳	1	0
70～74歳	0	0
65～69歳	0	0
合計	4	44



8.3% 91.7%

平均年齢

年間 平均年齢	性別	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	男	84.9	84.0	87.4	84.0	84.0	86.2	88.1	88.8
	女	90.0	90.1	90.7	91.0	90.6	90.6	90.3	90.3
	平均	88.5	88.5	90.1	89.4	88.7	89.6	90.1	90.1

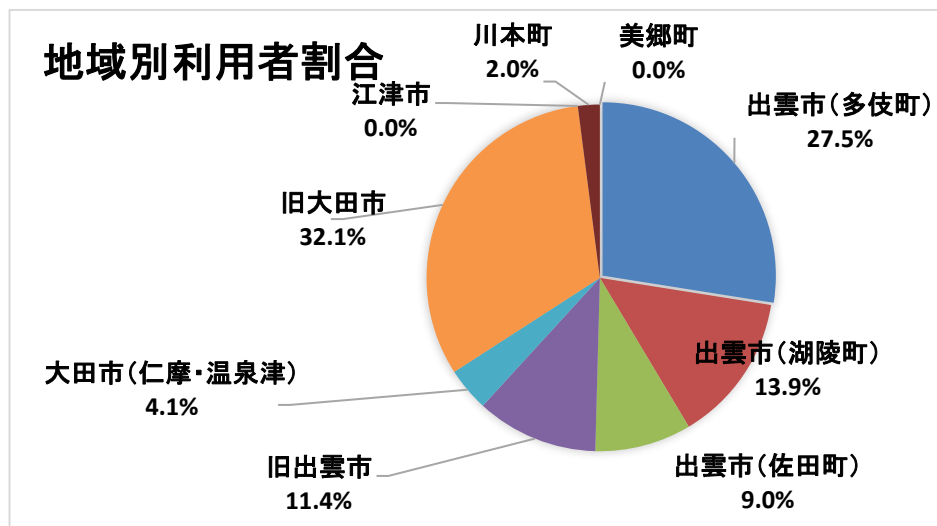
【施設サービス】

令和7年度

地域別利用者数

(末日在所者)

保険者名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	割合	R6年度	R5年度
出雲市(多伎町)	16	15	14	14	14	14	14	12	11	12	12	14	162	27.5%	29.1%	30.4%
出雲市(湖陵町)	7	7	7	5	5	5	5	9	9	8	7	8	82	13.9%	17.6%	11.8%
出雲市(佐田町)	5	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	4	53	9.0%	7.1%	9.5%
旧出雲市	6	5	5	6	6	6	6	6	6	6	4	5	67	11.4%	9.8%	3.6%
大田市(仁摩・温泉津)	1	2	2	3	3	3	3	1	1	1	2	2	24	4.1%	1.4%	2.9%
旧大田市	13	14	16	17	17	17	17	15	15	16	17	15	189	32.1%	31.7%	38.8%
江津市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.0%	1.2%	1.0%
川本町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	2.0%	2.1%	1.9%
美郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.0%	0.0%	0.0%
合 計	49	48	49	50	50	50	50	49	48	49	48	49	589	100%	100%	100%



利用者負担限度額認定者数(3月現在)

(負担限度額認定による補足給付対象者)

利用者負担	人数	割合	R6年度 人数	
第1段階	0	0.0%	0	0.0%
第2段階	3	6.3%	6	10.9%
第3段階①	12	25.0%	9	16.4%
第3段階②	10	20.8%	14	25.5%
非該当(第4段階)	23	47.9%	26	47.3%
合 計	48	100%	55	100%
補足給付割合	52.1%		52.7%	

入所期間(3月31日現在)

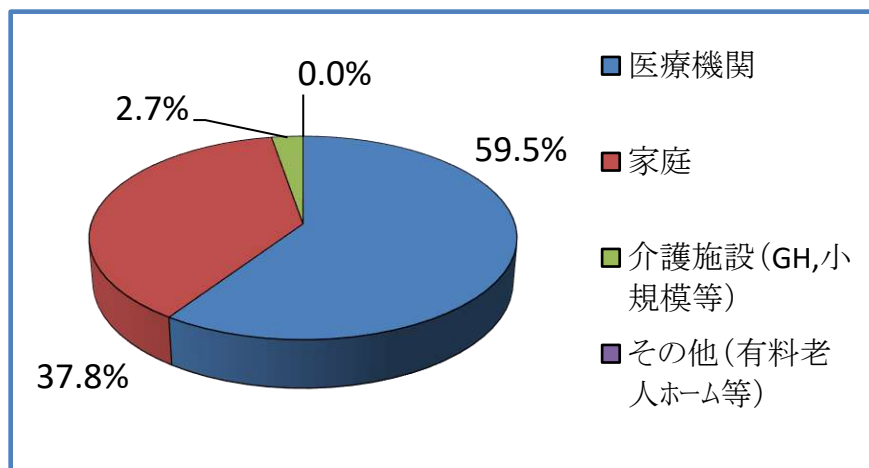
期間	人数	R6年 度	R5年 度	R4年 度
6カ月未満	14	17	19	23
6カ月以上1年未満	4	12	7	6
1年以上3年未満	22	15	20	19
3年以上5年未満	7	5	2	1
5年以上	1	0	0	1
合計	48	49	48	50

【施設サービス】

令和7年度 入退所状況

○入所状況

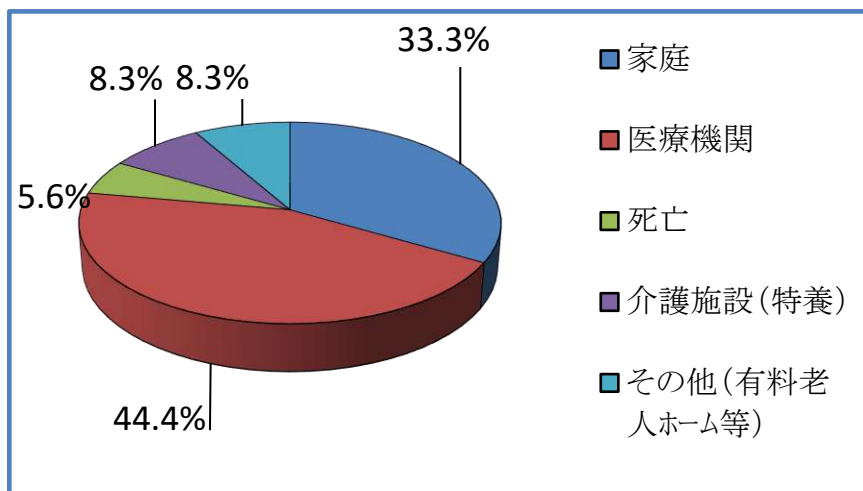
入所区分	人数	割合(%)	R6年度	
医療機関	22	59.5%	29 人	59.2%
家庭	14	37.8%	20 人	40.8%
介護施設(GH,小規模等)	1	2.7%	0 人	0.0%
その他(有料老人ホーム等)	0	0.0%	0 人	0.0%
合計	37	100%	49 人	100%



○退所状況

退所先	人数	割合(%)	R6年度	
家庭	12	33.3%	20 人	40.0%
医療機関	16	44.4%	20 人	40.0%
死亡	2	5.6%	2 人	4.0%
介護施設(特養)	3	8.3%	7 人	14.0%
その他(有料老人ホーム等)	3	8.3%	1 人	2.0%
合計	36	100%	50 人	100%

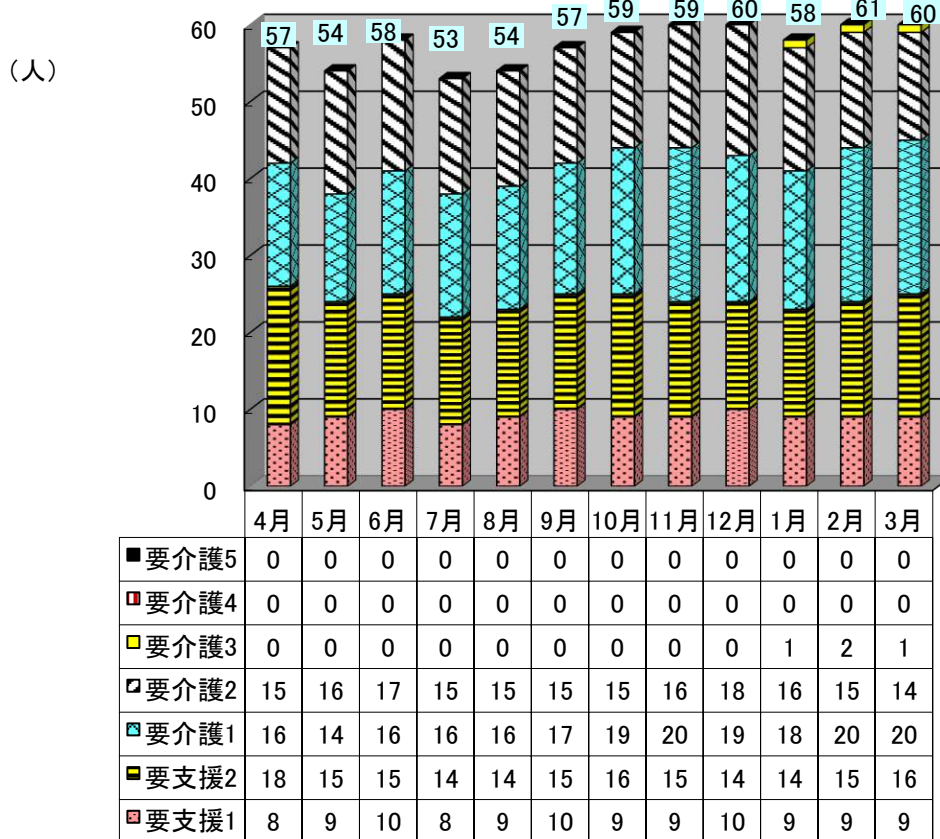
終末期ケア(ターミナルケア)の方は令和7年度2名おられた。



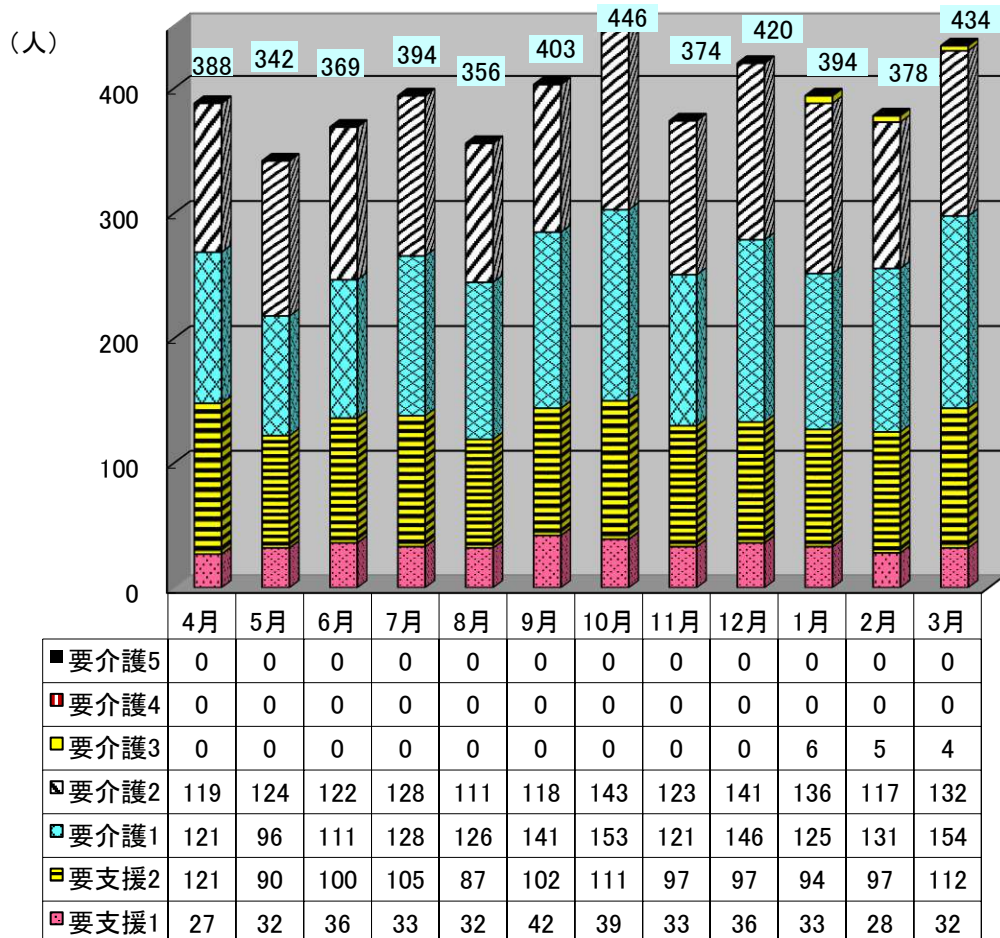
令和7年度 通所リハビリテーション(デイケア)利用者数

(定員25名)

介護度別利用者数

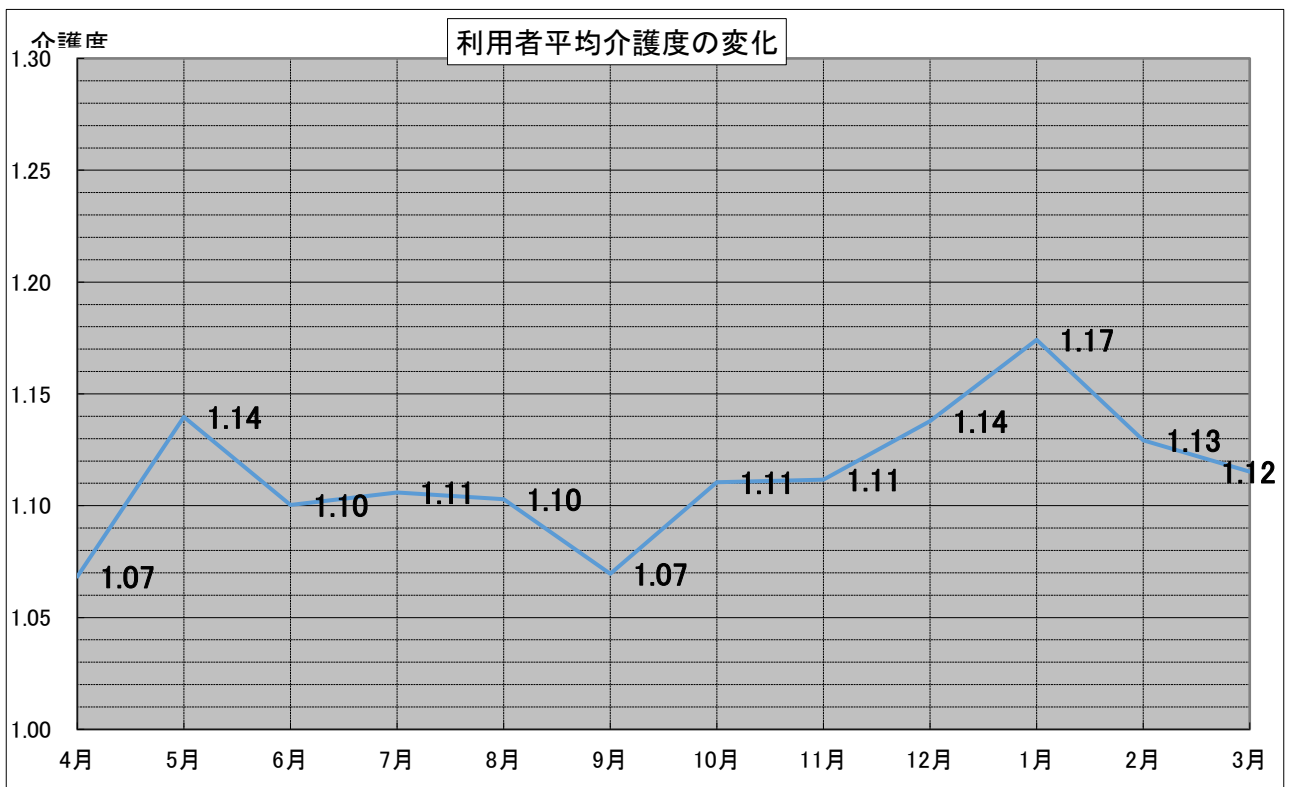
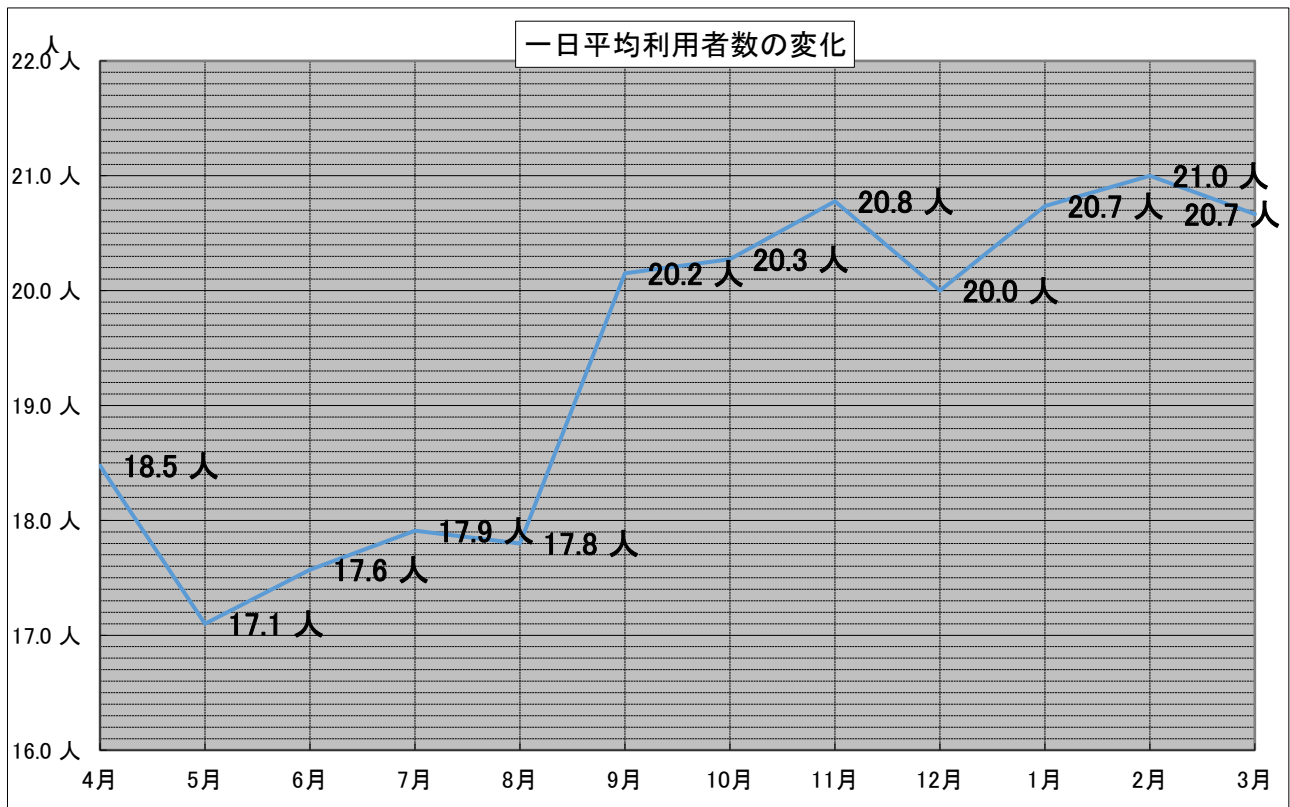


介護度別延利用者数



通所利用者 延べ 4,698人、1日平均19.3人(営業日243日)

(令和6年度 18.0人/日、令和5年度 17.3人/日、令和4年度 16.3人/日)



R7年度	男性	女性	平均
平均介護度	1.0	1.1	1.1

(R6年度 平均介護度1.1)

R7年度	男性	女性	平均
平均年齢	81.2	86.8	84.8

(R6年度 平均年齢85.0)

令和7年度 事業報告(目標達成状況、情報公表、苦情・要望等)

老人保健施設 たき

○重点施策(目標)

重点施策(目標)
(1) 国も推進しているロボット技術を応用した介護機器等(介護テクノロジー・ICT等)の導入を検討し、業務改善や効率化等を進め業務負担軽減やサービスの質向上に努めていく。 また、同様にノーリフティングケアの取り組みも推進していく。 (2) 利用者の体力や基本動作能力、生活機能向上を目的に集中的な維持期リハビリテーションを提供し、また家屋環境の調整等を行い早期の在宅復帰に努める。 (3) 地域包括ケアシステム(要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送れるように地域内で助け合う体制)の拠点となるために、医療機関、居宅介護支援事業所、介護サービス事業所等との連携強化を図り、在宅支援・在宅復帰のための施設を目指す。 なお、令和6年度介護報酬改定により協力医療機関との連携が重要となったことから、引き続き医療機関との連携に努める。
達成状況
(1) 介護機器等(介護テクノロジー・ICT等)を導入及び業務改善や効率化等を進め業務負担軽減やサービスの質向上に努めるに対して、介護記録ソフト導入、Wifi設置を行い介護記録の転記を減らし職員の業務負担軽減、業務の効率化を行った。また、音声入力を活用することでパソコン操作が苦手な職員でも入力できるようにし、入力時間の短縮につなげた。 (2) 協力医療機関として出雲市民病院と新たに協定を締結(R6年度)し、R7年度は当施設の感染対策を病院看護師に来てもらい実地指導してもらった。 (2) 維持期リハビリテーションを提供し在宅復帰に努めるに対して、在宅復帰率が令和6年度は約40%、令和7年度は少し数字を落とし38.3%となった。(全国平均40%) 入所者の在宅復帰には居宅の事業所と連携が欠かせないので、担当者会議や入所・退所前後訪問等も積極的に実施し連携に努めた。

○利用者ご家族との連携

・面会に関し、コロナの感染状況に応じR5.5からパネル越しの面会とし令和7年度もパネル越しを基本としながらも面会時間を30分に拡大したり少しずつ緩和ができるように対応した。 また、ご家族に入所者の施設生活の様子を伝えるおたよりを作成し、情報提供やコミュニケーションに努めた。
--

○情報公表等

・利用者や家族を対象とした、利用に関するアンケート調査を年1回実施した。総合満足度で9割の方から満足、残りの方から普通の回答を頂いた。今後も家族との連携を図っていきたい。 ・「介護サービス情報公表システム(厚生労働省HP・島根県HP)」による、介護サービス情報の公表を行った。 ・多伎の郷機関誌「しおかぜ」(年2回。多伎町全戸配布及び関係機関配布)において、日々の様子の紹介・報告を行った。 ・事業計画書・予算書や事業報告書・決算書を多伎の郷ホームページで公開した。

○苦情解決、要望・相談等

苦情解決実施要領に基づく苦情・・・なし

○実地指導関係

・所轄庁(島根県)における実地指導は令和7年度は無かった。(入所対象(3年に1回)は令和5年7月11日にあり、改善が必要な指摘事項は無かった。)(通所リハビリテーションを対象とした実施指導(5年に1回)は令和3年12月21日にあった。)

○防災訓練(年2回実施)、非常災害時等の対策

(1) 大規模災害発生時への対応のために「事業継続計画(BCP)」(R2年に策定)を初動基準・対応等修正する。また、新型コロナウイルス感染症等発生時における事業継続計画も修正した。 (2) 自衛消防訓練実施:年2回(昼・夜間想定)実施。避難訓練後に消火器の使用訓練。 (3) 防災会議(年2回)の開催。防火担当区域巡回を行った。 (4) 近年の災害の大規模化に伴い、「洪水・土砂災害についての研修会及び対応・避難訓練」を10月23日(木)に潮風苑やこども園と合同で、老健の2階を避難場所として行った。 (5) 防犯面の対策として、建物の周りに防犯カメラ3台を平成29年3月に設置し、防犯に努める。

老人保健施設たき（施設外・施設内研修）

令和7年度

○施設外研修

月	内 容	開催場所	参加者
7月3日	介護サービスの生産性向上の基本と取り組みのポイント	オンライン研修	主任介護職員
8月4日	介護サービスの生産性向上の普及・拡大ビギナーセミナー	オンライン研修	主任介護職員
8月	全国老健協 基礎職員研修	オンライン研修	介護職員1名
8月	全国老健協 中堅職員研修	オンライン研修	介護職員3名
6月～10月	認知症介護実践者研修	朱鷺会館	介護職員1名
8月7日	ノーリフティングケア研修 実技指導「福祉用具を活用」	出雲ロイヤルホテル	主任介護職員、主任作業療法士
8月25日	施設ケアマネジメント研修	パルメイト出雲 4F	介護職員1名
9月19日	令和7年度介護老人保健施設協会島根県大会 （老人保健施設のDX、DXについて取組、部門別意見交換会）	ニューウエルシティ出雲	施設長、看護長、主任相談員、事務長
11月27日	令和7年度介護老人保健施設協会 全国大会	山口県下関市	施設長、看護長、主任相談員
11月28日	（厚生労働省講演、アドバンスケアプランニング、介護ロボット等）		
11月20日	高齢者虐待防止と身体拘束防止研修	オンライン研修	介護職員1名
11月20日	福祉サービス苦情解決研修	オンライン研修	施設長、主任相談員
1月29日	高齢者虐待防止に係る研修会	オンライン研修	主任支援相談員
3月4日	介護生産性向上モデル事業所成果発表会	いきいきプラザ	施設長、主任介護職員、主任作業療法士
	令和7年度 介護保険施設サービス集団指導	資料配布	
	令和7年度 介護保険在宅サービス(事業所)集団指導	資料配布	
9/25.11/4	中学校3年生を対象とした「介護の基礎的講座」講師 （福祉とは、介護の職業の話、高齢者疑似体験）	佐田・湖陵中学校	主任介護、相談員

○施設内研修

月	内 容	講師
4月	リスクマネジメント	原主任介護士
	介護制度報酬改定・個人情報保護	竹下事務長
5月	感染対策連携病院のラウンドを受けて今後の取り組み	内田看護師
	介護職の為の接遇	三原看護長
6月	身体拘束及び高齢者虐待に関する研修	三原看護長
6月	口腔健康管理と口腔ケア	外部講師：江角歯科衛生士
7月	オムツパットについて(外部講習)	外部講師：ネピア宗像氏
	起居移乗動作・動作分析と介助方法	森山理学療法士
8月	感染症・コロナ感染症対応の振り返り	感染対策委員(内田)
9月	高齢者におけるレクリエーション	小林作業療法士
	リスクマネジメント	原主任介護士
10月	手指衛生みんなで取り組む感染対策	感染対策委員(内田)
	介護職の為の緊急時対応	三原看護長
11月	ターミナルケアについて	お茶の水サービス学院オンライン
11月	口腔研修会	外部講師：江角歯科衛生士
12月	虐待防止と身体拘束防止	今川介護士
	褥瘡予防	三原看護長
1月	嘔吐物の処理	感染対策委員(内田)
2月	アルツハイマー型認知症	お茶の水サービス学院オンライン
3月	ケアプラン	三原看護長(動画配信)

法人全体でオンライン研修をR6.11～導入開始した。

令和7年度 事業報告(医療・健康に関するケア)

○医療・健康に関するケア

項目	実施状況
健康チェック	①入所時:身長・体重測定・バイタル測定・血液検査 ②バイタル測定:定期的に実施。状態不安定な利用者に対しては状態に応じ適宜実施 ③体重測定:月1回、状態により適時実施 ④回診:医師による回診の実施・服薬調整 ⑤血液検査:療養食提供者・栄養サポート中の利用者の定期的な血液検査の実施 ⑥体調不良者への対応:状態変化・緊急時にはその都度医師による診察治療の提供 ⑦毎日の検温実施
施設内処置	①創傷処置:適宜実施。褥瘡等継続した処置者はない ②吸入:対象者なし ③吸引:適時実施 ④血糖検査 適時実施 ⑤スキンケア:適時実施【褥瘡モニタリングを導入しハイリスク者に対してケア実施】 ⑥フットケア:適時実施 ⑦点滴等:補液目的または急性循環不全時適時実施・(肺炎・尿路感染症・ヘルペス) に対する処置の実施 ⑧所定疾患に対する検査・治療:带状疱疹、蜂窩織炎、尿路感染症 ⑨酸素吸入:適時実施 ⑩ターミナルケア:ターミナルケアマニュアルに添ったケアの提供 ⑪排泄支援への取り組み実施(バルーンカテーテル管理)
受他診科	①大野歯科 歯科往診 ②ふじわら眼科(往診) 対象入所者のみ実施
緊急時対応	①急変時対応マニュアルに添った対応を実施。協力病院(島根県立中央病院・島根大学医学部付属病院・出雲市民病院・大田市立病院)連携医療機関(出雲市民病院) ②夜間看護体制の実施:24時間連絡体制の実施
診健断康	利用者 血液検査 職員 8月・・・一般健康診断 2月・・・健康診断【久村診療所】
感染症予防	①感染対策委員会の設置:感染対策指針に基づき基本となる感染対策マニュアル見直し ②定期的な感染対策委員会の開催:疾病及び感染症についての講義・うがい・手洗い・換気については職員への周知徹底を図る。張り紙などによる告知 ③季節に応じて感染対策の実施:食中毒への呼びかけ、家族へ差し入れの制限と管理、ノロウイルス等に対するマニュアルに添った対策の実施 ④コロナ感染症に対する感染防止対策実施。職員への周知教育実施・実技研修実施 ⑤食後の口腔ケアの実施:勉強会を開催し、ブラッシング・口腔ケア指導の実施 ⑥インフルエンザ・コロナ予防接種:同意者施行、コロナワクチン同意者7回目施行 ⑦手指消毒の実施:食前のアルコール消毒実施。衛生的な手洗いの指導・実施 ⑧施設内感染を想定した実演を用いた勉強会の開催(2回/年) ⑨協力医療機関の看護師による感染対策研修
対感応染	・COVID19発生に伴いゾーニング対応実施(老健BCPに沿って実施) ・職員感染者自宅待機による人員不足調整 ・職員、利用者の新型コロナ抗原キット検査・インフルエンザ検査実施

○NCMの状況(栄養ケア・マネジメント Nutrition Care Management)

項目	実施状況
実施方法	①対象者:血液検査・体重により、栄養サポート対象者を選出 ②月1回 医師・看護職員・介護職員・相談員・OT・事務長・栄養士参加による会議開催 ③栄養状態・体重の減少状況によりサポート内容を検討 ④補食提供 ⑤対象者は必要時の血液検査と体重測定の実施・喫食状況の確認 ⑥アセスメント・ケアプランの作成・モニタリング実施 ⑦高リスク者に対する改善への取り組み実施

○口腔衛生管理

実施方法	①入所時歯科衛生士による口腔内の評価を実施(1回/2ヵ月訪問時) ②月1回全利用者の口腔内の健康状態の評価を実施 ③歯科衛生士による勉強会(研修会)を実施(年2回) ④利用者に応じた口腔ケアの提供
------	---

令和7年度 事業報告(リスクの状況・身体拘束廃止委員会)(行事・レクリエーション)

1, 施設内での事故等について〔事故報告書、ヒヤリハット、ニアミス報告書〕

件数	施設内報告書 計 253件
	○ニアミス報告書: 20件、ヒヤリハット報告書: 188件、事故報告書: 45件 ○保険者へ報告した事故について 件数 0件 (R6年度 205件、ニアミス報告書:21件、ヒヤリハット報告書:163件、事故報告書:21件) (R5年度 309件、ニアミス報告書:28件、ヒヤリハット報告書:227件、事故報告書:54件)
内容	○勉強会にて各報告書の定義、記入方法を口頭にて説明する ○各報告書を提出してもらうよう職員への啓発を行う ○ニアミス報告書、ヒヤリハット報告書、事故報告書のデータ管理(原因分析を行い事故防止に努める) ○各職員が事例を把握出来るよう休憩室にて報告書の掲示を行う ○2ヶ月に1回のリスクマネジメント会議にて個人別対応検討、データ内容の開示を行う ○カンファレンス、生産性向上委員会の際に個人別対応方法を示すことで職員への周知徹底を図る。また、テクノロジー導入により安全対策をより強化した ○転倒アセスメントシート記入各職員に指示を出し転倒レベルの集計を行う ○転倒アセスメントシートにて注意者の検討(3か月に1回の見直しを行う) ○施設内、外での勉強会の実施 ○勉強会にて事例検討会の実施を行う
発見方法・ 次年度に向けて 原因分析	・認知機能の低下による混乱や不穏から独歩で移動される事が多く見られた。 ・アセスメントシートを使用しセンサー使用の優先順位、離脱の検討を継続して行っていく必要がある。また対応の優先順位も点数にて客観的に判断する必要がある。 ・入所時に転倒リスクが高いことを説明し家人への転倒理解を深めるため、施設長による同意書作成を継続して行う必要がある ・介護技術、理解は個人で差があり勉強会を定期的に行い統一した介助を行う必要がある。 ・危険意識にも差があり報告書の提出数にも差が見られた。また、ほのぼのネクストに導入してから報告書の記載に抵抗を感じている職員もあったため、マニュアルを作成し誰もが簡単に入力できるようにした。今後は新人職員のリスクに対する考えを深めるためにも啓発や勉強会にて各自の危険意識を向上させる必要がある

○身体拘束の状況

- ①緊急やむを得ない場合を含め、行なっていない。
- ②身体拘束状況の確認
- ③研修参加および施設内研修の実施

○年間行事・レクリエーション企画について

※コロナ禍において集団で密になるような活動・外部との交流は中止となっていたが、再開。

	企画	内容	主催委員会
4月	お花見会(お茶会)	桜が満開の頃午後のレクリエーションの時間に実施	食事委員会
6月	ラーメン会	普段施設入所中に食べる事のないカップラーメンをリクエストにより食する	レク委員会
7月	七夕会(七夕まつり)	笹で笹舟を作って七夕の歌を歌った	レク委員会
8月	納涼会	夏祭りの実施	食事委員会
9月	敬老食事会	敬老の日にお祝いの食事会をする	行事委員会
11月	秋の行楽会、ラーメン会	ススキを見ながら歌を歌い秋の和菓子を食した	レク・食事委員会
12月	忘年会	楽しみのある食事や行事を味わって頂く 抽選会を実施	レク委員会 食事委員会
2月	節分会	レクリエーションの時間に実施	レク・食事委員会
3月	ひな祭り会	和菓子を提供 午後のレクリエーションの時間に実施	レク委員会
毎月	誕生会	ケーキやお菓子等でお祝い	レク委員会

- ・外部ボランティアの歌や踊りを中心に再開した。久しぶりのボランティアさんで皆さんが大変喜ばれた。
- ・利用者様のストレスとならないよう。食事委員会と共同し食べる楽しみを中心に実施した。
- ・家人へは、たき通信や壁紙を通して、写真を見ていただいた。壁紙をこまめに換え季節感が感じられる配慮を行った。

令和7年度 事業報告(生産性向上委員会)

○活動内容

当施設は令和7年度より生産性向上委員会活動を開始する

(R6年度改正により介護現場における生産性の向上に資する取組の促進を図る観点から、現場における課題を抽出及び分析した上で、事業所の状況に応じて、利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置を義務付けられた。＜経過措置3年間＞)

月	活動内容	担当者	検討内容
R6年度3月	昨年度生産性向上委員会発足宣言、委員会メンバー選抜、リーダー・サブリーダーへの教育		
R7年度			
4月	生産性向上についての勉強会実施	生産性向上委員会 リーダー原介護主任	生産性向上委員会の進め方について説明 ・課題抽出は会議内では時間が足りないため 事前アンケート形式にする
5月	第一回目会議開催	生産性向上委員会 リーダー原介護主任	
6月	アンケートによる課題抽出報告	生産性向上委員会 リーダー原介護主任	抽出された課題について会議内で検討し改善策を立案する 以後は、PDCAサイクルで継続していく
7月	課題抽出:①記録に時間がかかることや2度手間など同じ作業の重複がある ②おむつ補充に時間がかかりすぎるまたかがむなどの動作があるため腰を痛めやすい	生産性向上委員会 リーダー原介護主任	①テクノロジー導入 ケアパレットにより、音声入力システムを導入する ②おむつ交換車を購入し、居室へのパット補充は中止する その他の未解決課題については次回検討
8月	ケアパレット導入についての説明 オムツ交換車(パットワゴン)導入前後の検証	施設長(益本先生) 原介護主任	オムツ交換車(パットワゴン) ・カートはコトリで安価の物を購入 ・手順書を作成しルール決めを行った その他 ・手順書の修正 ・未解決事項の検討 ・会議の進め方再検討
9月	パットワゴンについての実施報告 生産性向上委員会モデル事業セミナー開始(1回目)	原介護主任 介サボしまね	・問題点を抽出し細かな修正を行う ・手順書・工程表の見直し検討 ・その他の課題 インシデント報告書をデジタル化してはどうか
10月	パットワゴンについて手順書変更後の確認	原介護主任	・問題点を抽出し細かな修正を行う ・手順書・工程表の見直し検討 ・その他の課題 ケアパレット、メーカーからの説明会実施予
11月	排泄ケア方法改善後の経過報告 モデル事業セミナー(2回目)	原介護主任	・現状・検討・改善案 ・ケアパレット導入にあたり不安を感じている職員がみられた。ユーチューブ動画によりイメージ付けを行う
12月	排泄ケアについての総評 モデル事業セミナー(3回目)	原介護主任	・新たな課題への検討 ・排泄ケア改善実施終了宣言
1月	ケアパレット導入開始 モデル事業セミナー(4回目)	三原看護長	・ポケットマニュアル作成 ・使用方法の個別講習
2月	面会制限について ケアパレット導入 モデル事業(工程表への助言)	原介護主任 三原看護長	・感染状況を確認し面会制限を決める ・ケアパレット導入前後の定量検査実施 ・職員の課題抽出のデジタル化 ・勉強会のデジタル化(動画配信)
3月	次年度のICT導入についての説明 事業成果報告会	施設長(益本先生) 原介護主任	・アンケートはグーグルフォームにて実施 ・いきいきプラザにて発表

総評

ICTの導入を生産性向上委員会が主体となって取り組んだ。モデル事業として専門家からのアドバイスを受けることでICT導入前後の定量検査を実施したり、生産性向上委員会の内容がより充実したものになった。また、課題抽出をデジタル化としたことで、誰もが意見を自由に言える場所ができた。会議ではなかなか意見が言えなかった職員からも意見を聞くことが出来たことで、課題抽出の幅が広がった。自分たちで考え改善し行動するPDCAサイクルを確立したことで、職員一人一人の意識も変わってきた。今後の活動もより働きやすい環境に繋がるようにしていきたい。

令和7年度 事業報告(栄養ケアマネジメント)

●目的

低栄養状態のリスクがある特定利用者において栄養状態の維持改善を目的に栄養サポートする。

●栄養ケアマネジメント手順

利用者に対し栄養状態のスクリーニング・アセスメントを行い栄養ケア計画を作成する。

栄養ケア計画に基づき実施・チェックを行いモニタリングする。

低栄養のリスクによってモニタリング期間が異なり、低リスク者は3ヶ月毎、中リスク者は1ヶ月毎、高リスク者は2週間毎にモニタリングし評価を行い、再スクリーニングしていく。

●低栄養のリスク判断基準(BMI 17.0未満、血清アルブミン値3.4g/dl以下、食事摂取量の低下)

リスク分類	低リスク	中リスク	高リスク
BMI	18.5以上	18.5未満	
体重減少率	変化なし (減少3%未満)	1 か月に3～5%未満 3 か月に3～7.5%未満 6 か月に3～10%未満	1 か月に5%以上 3 か月に7.5%以上 6 か月に10%以上
血清アルブミン値	3.5g/dl 以上	3.0～3.4g/dl	3.0g/dl 未満
食事摂取量	76～100%	75%以下	
栄養補給法		経腸栄養法・静脈栄養法	
褥瘡の有無			褥瘡

●リスク別人数

	低リスク	中リスク	高リスク		低リスク	中リスク	高リスク
4月	13	29	6	10月	13	27	8
5月	11	31	8	11月	13	28	8
6月	12	29	8	12月	12	28	8
7月	13	28	8	1月	14	27	8
8月	14	30	6	2月	14	27	8
9月	13	27	7	3月	14	28	7

●低栄養状態の時の栄養補助食品(1人が複数付加することもある)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ①たんぱくゼリーセブン…蛋白質強化 | ④エネプロゼリー…エネルギー・蛋白質強化 |
| ②メイバランス…エネルギー強化 | ⑤その他(きな粉・食事量の調整)…蛋白質強化 |
| ③エブディッシュ豆腐…エネルギー・蛋白質強化 | |

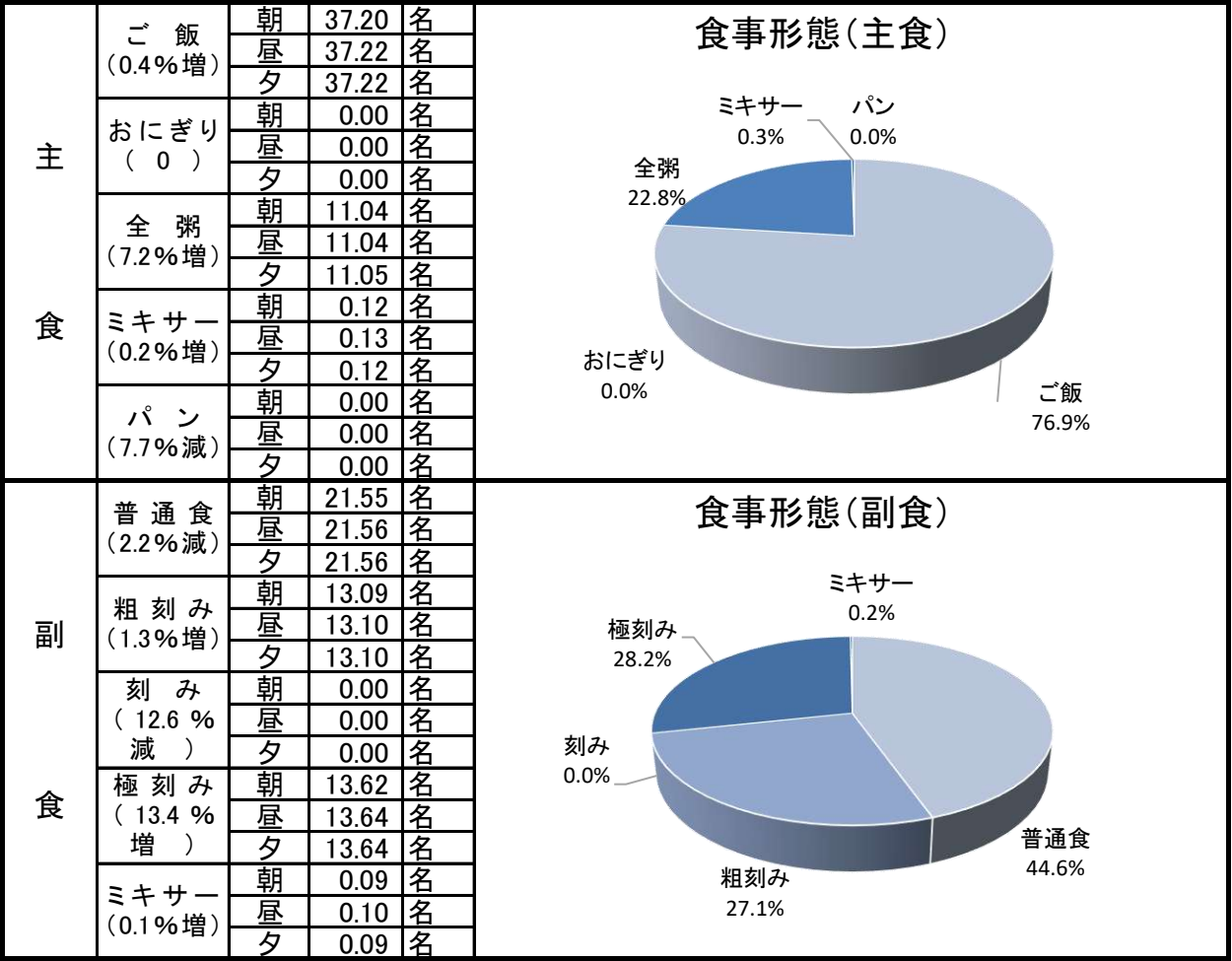
●会議

栄養ケアマネジメント会議の実施(定期的な血液検査の結果により低栄養の利用者をリストアップし、どのようにサポートしていくか検討していく会議)

開催日	内容	実施者	①	②	③	④	⑤
4月21日	・体重増減、BMI、食事量の確認、状況報告・定期血液検査の実施、結果検討・新規利用者のアセスメント	9人	3人	2人	1人	3人	0人
5月19日	・体重増減、BMI、食事量の確認、状況報告・定期血液検査の実施、結果検討・新規利用者のアセスメント	8人	3人	2人	1人	2人	0人
6月16日	・体重増減、BMI、食事量の確認、状況報告・定期血液検査の実施、結果検討・新規利用者のアセスメント	8人	3人	2人	1人	2人	0人
7月22日	・体重増減、BMI、食事量の確認、状況報告・定期血液検査の実施、結果検討・新規利用者のアセスメント	9人	4人	2人	2人	1人	0人
8月18日	・体重増減、BMI、食事量の確認、状況報告・定期血液検査の実施、結果検討・新規利用者のアセスメント	9人	6人	2人	0人	1人	0人
9月16日	・体重増減、BMI、食事量の確認、状況報告・定期血液検査の実施、結果検討・新規利用者のアセスメント	9人	5人	2人	1人	1人	0人
10月20日	・体重増減、BMI、食事量の確認、状況報告・定期血液検査の実施、結果検討・新規利用者のアセスメント	10人	6人	2人	1人	1人	0人
11月18日	・体重増減、BMI、食事量の確認、状況報告・定期血液検査の実施、結果検討・新規利用者のアセスメント	8人	5人	1人	1人	1人	0人
12月15日	・体重増減、BMI、食事量の確認、状況報告・定期血液検査の実施、結果検討・新規利用者のアセスメント	8人	5人	1人	1人	1人	0人
1月19日	・体重増減、BMI、食事量の確認、状況報告・定期血液検査の実施、結果検討・新規利用者のアセスメント	8人	4人	1人	2人	1人	0人
2月16日	・体重増減、BMI、食事量の確認、状況報告・定期血液検査の実施、結果検討・新規利用者のアセスメント	7人	2人	2人	2人	1人	0人
3月16日	・体重増減、BMI、食事量の確認、状況報告・定期血液検査の実施、結果検討・新規利用者のアセスメント	7人	2人	2人	2人	1人	0人

令和7年度 事業報告(調理)

●食事状況(一日平均)



●令和7年度 療養食数(療養食加算算定者数)

療養食種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
糖尿病食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腎臓食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●令和7年度 行事食

月	日	行 事	行事食の内容
5	5	こどもの日献立	キャロットピラフ・エビフライ・お魚オムレツ等
6	11	入梅の日献立	彩りご飯 あじの梅煮等
6	19	喫茶ひだまり	
7	7	七夕献立	星型ハンバーグ等
9	10	敬老の日献立	散らし寿司 ぶりと山菜の煮付け等
10	16	喫茶ひだまり	
10	31	ハロウィン献立	カレーピラフ 星形コロッケ等
12	24	クリスマス献立	チキンライス 星型ハンバーグ等
1	1	正月献立	盛合わせ ぶりの照り煮等
1	4	正月献立	散らし寿司 天ぷら盛合わせ等
2	3	節分献立	散らし寿司 いわしのつみれ汁等
2	26	喫茶ひだまり	
3	3	ひな祭り献立	散らし寿司 天ぷら盛合わせ等